

# 街に音楽を！

NPO法人徳島ミュージックユニオン理事長

林 郁夫

合い言葉は「街に音楽を！」

NPO法人徳島ミュージックユニオンは、二〇〇六年十二月に、徳島における音楽の垣根を越えた様々な音楽家（クラシック、ジャズ、ゴスペル、邦楽、ロック、フオーク、ラテン等々）と、音楽愛好家によって、（徳島の音楽文化の向上）を主眼に置き結成された。ユニオンと名付けられているが、決して組合という意図ではなく、会員の知恵の結束（ユニオン）という意味を持っている。当初は、クラシック・ジャズの仲間達から（我々を利用して、金儲けでも企んでいるのか？）と、

かなり不審に思われたりもしたが、石の上にも三年！

地道な活動が認められ、協力してくれる演奏家が飛躍的に増加した。会員も八〇名を越え、また協力してくれる企業、個人も含めると、約三〇〇余名の方々が何かのカタチで携わっていることになった。

ひとりやふたり、また一団体ではとうていできないようなイベントを行政・各団体と連帯して、次々と打ち上げては、実現していく。我々にとっても未知の荒野ではあるが、仲間と協力しあって達成した時の充実感は一とおである。またそれぞれのイベントに対

して、新たな出会いがあるのも楽しみのひとつである。自分達を納得させるキャッチフレーズが作られるのも、この時である。「子供達の目の中のお星様を見に行こう！」「終わってみんなで、美味しい酒飲もう！」等々。

Go for broke!

時には、自分達の常識が、相手にとっては非常識となることも。その逆もしかり。始末が悪いと言えば、それだけだが……。とんでもない啖呵を切って、某役所を後にした猛者もいる。現場でとまどいながらも、その接点を見つけ、協力体制を整える、言葉では簡単だが、これがまたやっかいなシロモノ。幸いにして、徳島では市長をはじめ、議員、新聞社、放送局、各企業にいたるまで、親しい友達がいるという地方都市ならではの利点がある。これらを最大限に活かして Go for broke！（当たって砕ける！）式でぶつかって



▲NPO 法人徳島ミュージックユニオン理事会（中央最後尾が筆者）

く、遠回りするより、本音でぶつかれば道は開けるものである。以下に、今まで印象に残っているイベント、興味深かったイベントのいくつかを紹介する。

## ■お花見ライブ at 鷺の門広場

徳島には、中央公園という桜の名所がある。その公園内に昔の徳島城の鷺の門を再現した広場がある。そこに巨大なステージを建て、NPOのメンバーを中心に、県内各地で活躍する第一線の音楽家達を集め、桜を愛でる花見客の前で、



▲お花見ライブで演奏する筆者(林郁夫)  
後方は奥方の恵子(フルート担当)



▲お花見ライブで演奏する筆者がバンドマスターのサニーサイド・ジャズオーケストラ

お花見ライブを展開するのである。

クラシック、ジャズ、ロック、フォーク、ラテン、ビッグバンドなどを一同に集め、約10バンドで延々4、5時間。

聴衆はのべ六〇〇〇人のビッグイベントである。演奏家達は、さまざまなジャンルのプレーヤーと同じステージを共有することにより、互いに刺激を受け合いながら切磋琢磨するのである。

終了後の全員での大宴会も魅力のひとつであるが、お花見ライブは徳島の春の恒例事業となりつつある。もちろん貧乏団体の我々NPOだけでは、当然経費はまかなえず、市民の募金、企業の協賛、行政の協力など、さまざまなかたちで応援していただいている。

音響業者も格安で、ステージ、楽器などを提供してくれ、コンサート終了後の巨大ステージは、出演者全員の手で、解体され運ばれてゆく、いわば手作りコンサート  
の典型的な私たちかもしれない。

## ■音楽の泉コンサート

音大を卒業した若手演奏家達を集め、クラシックの名曲を、さまざまなかたちで奏でるコンサート。

演奏者、企画、運営、裏方まですべてNPOのメンバーが担当した。常に満席の会場は、華やかさでいっぱい。

フルート、ピアノ、バイオリン、チェロ、声楽などの若手演奏家達も、年々レベルが上がってきており、会場からは「入場料が安すぎるよー！」とありがたいお言葉をいただいた。

会場横には、知的障害者通所授産施設のブースも設け、心豊かな来場者が大勢訪れて、いっぱい励ましの言葉もいただいた。ステージでは、当たり前のように難曲をこなす若手演奏家達に万雷の拍手がわき起こる。NPOのメンバーとして、誇りに思う至福の時である。

## ■貴方と落語と音楽を

これはジャズの名盤(貴方と夜と音楽を!)をもじったものだが、ジャズコンボの演奏の合間に、高座を作り、徳島在住のプロの落語家の斬を2席。どちらも、臨場感溢れる魅力あるライブであった。

生のライブ、もちろんアドリブたっぷりのジャズと落語。どちらも共通するものがあるから、不思議なもの。

会場は、ほとんどがジャズファンだったが、興味津々。今まで生の落語を聞いたことのない若いジャズファンが、「落語ってほんとにいいですねえ！」と、笑い転げるのを見ると、してやったり!の感があった。

## ■夢色の風コンサート・親父達の熱い午後

これはミュージックストーリーと銘打ち、クラシックコンサートと隣接する会場で同時開催し、聴衆はどちらでも好きな会場を行き来できるという試み。